

# 平成二十八年入学試験

## 前期日程試験問題

# 国語

### 注意

- 一、開始のチャイムが鳴るまで開いてはいけません。
  - 二、受験番号を解答用紙の二カ所に書き、答えはすべて**解答用紙**に書きなさい。
  - 三、問題は**1**から**3**までで、五ページにわたって印刷してあります。
  - 四、終了のチャイムが鳴ったら、すぐに筆記用具を置きなさい。
- なお、問題用紙のほかに別紙があり、表に**別紙1**、裏に**別紙2**が印刷されています。

1 次の各問いに答えなさい。

問1 ——— 線のカタカナを漢字に直しなさい。送りがなが必要な場合は、それをひらがなで書きなさい。

- (1) デントウ的な文化を学ぶ。  
(2) テレビがコシヨウする。  
(3) 心に思い出をキザム。  
(4) イサギヨク負けを認める。  
(5) 世界イサンに認定される。

問2 ——— 線の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

- (1) 直ちに計画を実行する。  
(2) 快く仕事を引き受ける。  
(3) 綿密な計画を立てる。  
(4) 長い年月を費やす。  
(5) 田畑を耕す。

② 別紙1の文章を読んで後の問いに答えなさい。

問1 ——— 線① 「五年生の担任が集まっていた」とありますが、それは何のためですか。本文中から十二字でぬき出して答えなさい。

問2 ——— 線② 「挑みがいのある最適なコース」とありますが、それはどのようなコースですか。次の中からあてはまらないものを一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 山頂近くまでずっと沢伝いに登っていくコース。
- イ 沢のなかにある飛び石を伝っていくコース。
- ウ 途中、びわ滝という滝を通るコース。
- エ 山の中腹にある薬王院に参拝するためのコース。

問3 ——— 線③ 「今年だけ難易度の低い一号路を選ぶ理由」とありますが、その理由は何ですか。本文中の言葉を使って三十字以内で答えなさい。

問4 ——— 線④ 「本末転倒」とは「根本的なことがらとささいなことがらを取り違える」という意味ですが、本文中ではどのようなことを指しているのですか。具体的に説明しなさい。

問5 ——— 線⑤ 「たしなめられ」・⑩ 「ぶつきらぼうに」とありますが、「たしなめる」・「ぶつきらぼう」の意味として適当なものを次の中からそれぞれ一つ選んで、記号で答えなさい。

- ⑤ たしなめる
  - ア からかう
  - イ ばかにする
  - ウ とがめる
  - エ あきれる
- ⑩ ぶつきらぼう
  - ア 愛想のないこと
  - イ 突然なこと
  - ウ 興味がないこと
  - エ 不自然なこと

問6 ———線⑥ 「遠足モードになってしまった」とありますが、この時の子どもたちの様子として適当なものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 遠足がうまくいくか不安になっている。

イ 遠足のことしか考えられなくなっている。

ウ 遠足が楽しみで自分の思いどおりに進めようとしている。

エ 遠足に行ったような気持ちになっている。

問7 ———線⑦ 「まさきに異変を感じとったのは陽介だった」とありますが、陽介はどのようなことを予想したのですか。二十字以内で答えなさい。

問8 ———線⑧ 「少しもおもしろくない冗談」とありますが、なぜ赤尾先生は「冗談」を言ったのですか。十五字以内で答えなさい。

問9 ———線⑨ 「じつと黙って聞いている」とありますが、この時の子どもたちの気持ちとしてあてはまらないものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 赤尾先生といっしょに遠足に行きたいと思っている。

イ 赤尾先生が遠足に行けないかもしれないと心配している。

ウ 赤尾先生の言うことをその通りだと受け入れている。

エ 赤尾先生は真剣に話してくれていると感じている。

問10 に入る言葉として適当なものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア すがすがしく   イ 冷たく   ウ 頼もしく   エ 悲しく

③ 別紙2の文章を読んで後の問いに答えなさい。

問1 ——— 線① 「鏡のような川の水面」とありますが、同じ表現技法を用いているものを〔 〕の部分から十三字でぬき出して答えなさい。

問2 ——— 線② 「恐竜映画にでも出てきそうなジャングルの自然」とありますが、それを具体的に表している連続した二文をぬき出し、はじめの五字を答えなさい。

問3 ——— 線③ 「川岸に置かれた」とありますが、何によって置かれたのですか。本文中から三字でぬき出して答えなさい。

問4 ——— 線④ 「白い物体」とは何ですか。本文中から十二字でぬき出して答えなさい。

問5 ——— 線⑤ 「海上」と同じ組み立ての熟語を次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 読書            イ 明暗            ウ 温暖            エ 薬草

問6 文中の〔 〕で囲まれた部分には意味の通らないところがあります。その言葉をぬき出して正しく直しなさい。

問7 ( 1 )( 2 )( 3 )に入る適当な言葉を次の中から選んで、それぞれ記号で答えなさい。ただし、記号は一度しか使えません。

ア けれども            イ つまり            ウ さらに            エ たとえば            オ なぜなら

問8 ———線⑥「ごみが延々と漂着していることに気づかされます」とありますが、海岸に漂着しているごみについて次のようにまとめました。  
表の（ア）（ウ）にあてはまる言葉を本文中からぬき出して答えなさい。

ごみの落ちている場所	ごみの種類
海岸	（ア）、ペットボトル、洗剤のボトル、大型ポリタンク、プラスチック製の容器、電球
（イ）メートルほど入った奥の林	フロートの破片、（ウ）、プラスチック製の容器、電球
海岸から一〇〇メートル以上離れた林の中	フロートの破片

問9 ———線⑦「海藻を除いたデータ」とありますが、なぜ海藻を除いたデータを出すのですか。十五字以内で答えなさい。

問10 

A
---

C
---

 に入る言葉や数字を答えなさい。（Aは本文中からぬき出し、B・Cは円グラフから読み取って答えなさい。）

問11 海岸にあるごみを減らすためにはどのようなようにしたらよいと思いますか。自分たちの力で減らすことができるごみの種類を一つあげて、あなたの考えを八〇字以上一〇〇字以内で説明しなさい。

これで問題は終わります。

別紙2（本文は、設問の都合で省略・変更した箇所があります。）

波のない①鏡のような川の水面を、カヌーが滑るように進んでいきます。

少しにごった川の水は、上流からの養分をたつぷりと含み、それらがやがて海に流れ込んでこの一帯の生態系の栄養源になることを、見る者に感じさせます。川岸には、熱帯・亜熱帯地域に特有のマングローブが立ちならび、泥の上に無数の根つこがポコポコとせり出す独特の景観を見せています。あたりは、ときおり野鳥の甲高い叫び声がする以外、カヌーのパドルが水をかくピチャッピチャッという音しか聞こえてこない静寂の世界。まさに、②恐竜映画にでも出てきそうなジャングルの自然を堪能できるのが、ここ西表島のヒナイ川です。

ところが、私たちがカヌーで一〇分ほど進んだときのことです。突然、③川岸に置かれた大きな④白い物体が目に入ってきました。直径一メートル弱、長さは一・五メートル。重さも一〇キロ近くはあるかという「フロート」です。フロートとは、漁業で使う発泡スチロール製の浮き具のこと。⑤海上に設置された魚の養殖場の囲いにする網にくくりつけ、網を浮かせるために用いられます。オレンジや赤などの厚いプラスチック製のカバーで覆われていることも多いのですが、目撃したフロートにはカバーはありません。海面を漂い、波に揺られる間に取れてしまったのか、海外で使われているカバーなしのものなのか、どちらかなのでしょうか。

先程「川岸に置かれた」と書きましたが、じつはこれ、人が置いたものではありません。水の力がこのフロートを運び、置いたのです。目撃した地点は河口から一キロ近く上流でしたから、水は巨大なフロートをとめて短い距離運んできたこととなります。ここからも、動く水の持つ巨大な力がわかります。

（1）、海から来たごみはこれだけではありませんでした。西表島の海岸のいたるところで、無数のごみを目撃したのです。

（中略）

西表島の海岸、特に夏には南に面した海岸に、冬には北に面した海岸に、多くのごみが漂着しているのです。その中のひとつ、西表島の北東部にあるユチンの浜辺の様子です。ここは、青く澄んだ海と美しい浜辺が心に残る、まさに絵はがきの世界のような海岸です。ゆったりと波が寄せては返すさまは、南の楽園を思わせます。

（2）この海岸をよく見ると、数百メートルにわたって、⑥ごみが延々と漂着していることに気づかされます。目につくのは、先程の川岸にあったものと同じ大型のフロートですが、数の上ではペットボトルや洗剤のボトル、液体を入れる大型ポリタンク、プラスチック製の容器といったごみが、多数を占めています。優に数千、数万個という単位でありそうです。

浜辺から三〇〜四〇メートルほど入った奥の林にも、たくさんのごみが落ちていきます。フロートが砕けた発泡スチロールの破片や紙コップ、プラスチックの容器など比較的軽いものが中心ですが、大小の電球がいくつも落ちていたのにも驚かされます。電球は、直径二〇センチくらいのが大きなものが海岸にも落ちていました。漁で使う「集魚灯」だと思われれます。間違って踏んだりすると、大げがをしかねない危険な漂着ごみです。

さらに奥の、海岸から一〇〇メートル以上離れた林の中でも、無数の発泡スチロール片などが見つかりました。これらはすべて、風や満潮時の波などによって波打ち際から運ばれてきたものばかり。時間があると海岸やマングローブ林のごみをひろい集めるといふ森本さんも、「海岸清掃をする場合でも、林の中に入ってしまったごみは、なかなか回収できないんです」と困った表情になります。

（中略）

ごみが流れ着いているのは、沖縄や北海道の海岸ばかりではありません。本州や四国、九州など、国内のほとんどの浜辺に多くのごみが漂着しています。そこで今度は、本州・神奈川県湘南海岸の状況について見てみましょう。

（中略）

湘南海岸の浜辺で回収されたごみは、どのようなものでしょうか。かながわ海岸美化財団は、一九九一年に創設されて以来、神奈川県内の横須賀から湯河原にいたる広い範囲で、海岸の美化に取り組んできました。そこから、ごみに関する多くのデータが蓄積されています。

（3）、一九九三年度から二〇〇三年度までの一年間に回収されたごみの「種類」の内訳を見ると、海藻が約六三パーセント、その他の自然のごみが約一七パーセント、人工のゴミが約二一パーセントとなっています。ただし、このデータでは、海藻のごみ全体の約六割を占めているため、それだけが目立ってしまいます。

そこで、⑦海藻を除いたデータも出されています。もともなったのは、一九九三年度と翌一九九四年度におこなわれた調査です。

それによると、河川から流れてきたAは約四五パーセント。河川から流れてきた人工のごみは約二四パーセント。海岸に捨てられていたごみは約Bパーセント。海で発生したごみは約一パーセントを占めています。このうち、河川から流れてきた自然のごみというのは、たとえば木くずやワラ、竹、アシやヨシ、それに葉っぱといったものです。河川から流れてきた人工のごみというのは、ペットボトルや空き缶、食品容器、袋類をはじめとする、自然のごみ以外のすべてのごみを指しています。海岸に捨てられていたごみも同じような内訳ですが、これにプラスして、浜辺で使ったあとの火花なども含まれています。海で発生したごみというのは、ロープや漁網といった漁具、釣具などを指しています。河川から流れてきた自然のごみ以外は人工のごみですから、海藻を計算に入れなければ、人工のごみの割合は約Cパーセントということになります。また、これも海藻を入れなければ、河川から流れてきたごみは約六八パーセント、海岸や海で発生したごみは約三二パーセントだということもわかります。

（出典 眞 淳平『海はゴミ箱じゃない！』）

別紙1 (本文は、設問の都合で省略・変更した箇所があります。)

「うーん、どうしましょうかねえ」職員室の向かいにある教育相談室には、<sup>①</sup>五年生の担任が集まっていた。九月末に予定されている遠足についての打ち合わせ。子どもたちに配るしおりを作成する係、教育委員会へ提出する書類を作成する係、事前に駅に赴き、団体乗車券の予約・購入を行う係など、だれがどんな役割を担当するかについてはすぐに決まったが、当日の登山コースについては、なかなか結論が出ずにいた。

(中略)

「青柳先生、やっぱり一号路では物足りないですかねえ」紺野が主張する一号路とは、山の中腹にある薬王院に参拝するための「表参道コース」とも呼ばれる登山路で、ケーブルカーを利用して途中の高尾山駅まで行ってしまえば、あとは比較的ゆるやかな傾斜が続く。また、ルートのひとつが石畳で舗装されているのも、このコースだけだった。「そうですかねえ。中学年くらいならまだしも、五年生の遠足としてはちよつと物足りなく感じるんじゃないかしら。それに、毎年、五年生は六号路と決まっているのに、今年だけ一号路に変更するというのもねえ」

途中、びわ滝という滝を通るために「びわ滝コース」とも呼ばれる六号路は、傾斜こそそれほどきつくないものの、山頂近くまでずつと沢伝いに登っていくために足元が悪く、またルートの中には沢のなかにある飛び石を伝っていかなければならない箇所もある。子どもたちにとっては<sup>②</sup>挑みがいのある最適なコースだが、重さ百キロの電動車いすに乗る赤尾には、不可能な登山路だと言えた。

「もちろん、例年、五年生が六号路で登っていることはわかっています。でも、『これまでそうだったから』という点に、そこまでこだわる必要はないんじゃないですかね」「ええ、紺野先生のおっしゃることはわかります。たしかに、『去年までと同じ』であることにこだわる必要はありません。でも、変えるからにはそれなりの理由が必要なんです。いつもは六号路なのに、<sup>③</sup>今年だけ難易度の低い

「一号路を選ぶ理由——」

食いさがる二組の担任を、学年主任の青柳はあくまでも論理的にはねのける。だが、それでも紺野はあきらめなかった。

「理由はありません。それは——」そこまで言うのと、ななめ向かいにすわる赤尾にちらりと目をやった。「赤尾先生です。例年どおりの六号路では、どうしても車いすの赤尾先生は登山することができません。だけど、傾斜もゆるやかで、舗装されている部分の多い一号路なら、赤尾先生の車いすでもなんとか行けると思うんです」

「それはわたしも気になっていました。六号路では、おそらく赤尾先生はむずかしいだろうなど。だけど紺野先生、遠足という行事はいつたいだれのためのものですか。主役は子どもたちでしょう。教師というのは、あくまでもそのサポート役だと思っんです。そのサポート役である教師の都合によって子どもたちのルートが変えられるなんて、<sup>④</sup>本末転倒だとは思いませんか」そのとおりかもしれない、と赤尾は思った。

(中略)

「先生、今日の学級会は何するの?」三時間目が始まるチャイムが鳴り、全員が席につくと、陽介がいつものように質問の声をあげた。赤尾が答えるよりも先に気の早い慎吾が口を開くのも、いつものこと。

「きつと、遠足のときのバスの座席決めをするんだよ!」「ばーか。今度の遠足は電車で行くんだから、そんな決めたって仕方ないだろ」「あ、そうだった……」陽介に<sup>⑤</sup>たしなめられ、慎吾が頭をかく。クラスじゅうから笑いが起きた。ふたりのやりとりから、子どもたちの頭はすっかり<sup>⑥</sup>遠足モードになってしまった。

「でも、いよいよ二週間後だね」「お天気がいいといいなあ」「そういえば、しおりってまだ配られてないよね?先生、しおりまだ?」文乃がするどい指摘で、担任を困らせる。しおりを作成するのはパソコンが得意な赤尾の担当となっていたが、どのコースで登山するかが決まっていない以上、まだ印刷にかけるわけにはいかなかった。

「うーん、まだ決まっていな部分もあつてな。悪いけど、もうちよつと待っていてくれ」担任の不自然なつくり笑いに、<sup>⑦</sup>まっさきに異変を感じとつたのは陽介だった。

「先生さあ……遠足、どうするの?」「ん、どうするって、何が?」わざとわからないフリをしてみせたが、もう手遅れだった。

「今回の遠足って、山登りでしょ?先生、ムリじゃん……」陽介の言葉に、ようやく自分たちの担任が車いすであることを思いだした子どもたちが、不安そうな表情で赤尾の顔を見つめる。

「あ、みんな知らないんだっけ?この車いすには隠しスイッチがついてて、それを押すと翼が出てきて空飛べるんだぞ!」<sup>⑧</sup>少しもおもしろくない冗談に、だれも笑う子などいなかった。赤尾はひきつった笑顔を浮かべたまま、一瞬のうちに考えをめぐらせた。結論が出ていない以上、まだ何も話すべきではないのか、それとも——。

「まだ、わからないんだ」赤尾は、ふと横目をやって白石の表情を確認した。相棒は「やめておけ」と目で合図していたが、子どもたちの前では正直でありたいという気持ちだが、それを上回った。

「みんなが心配してくれているように、先生も車いすで高尾山にのぼれるのか、正直、わからない。でも、たとえ行けたとしても、担任の先生としてみんなを守ることができるのか、自信がないんだ。それなら、先生は行かないほうがいいんじゃないかとも思ってる」子どもたちは、<sup>⑨</sup>じつと黙って聞いている。

「もちろん、先生だってみんなといっしょに山登りたいよ。でも、先生の仕事は、みんなが危ない目に遭わないうう気を配ってあげること。それがきちんとできないなら、代わりにほかの先生に行ってもらうしかないんじゃないかって」

「そんなの、おかしいよ……」陽介がしぼりだすような声でつぶやいた。

「先生、いつもオレたちに逃げるなって言ってるじゃん。運動会するとき、オレにそのこと教えてくれたの、先生だろ」ふだんは無口な康平が、<sup>⑩</sup>ぶつきらぼうに言い捨てる。公彦は、くちびるをぐつとかみしめたまま、下を向いていた。

「詳しいことが決まったら、すぐに伝えるから」気休めにしかならない赤尾の言葉が、秋の陽光が射しこむ教室に響いた。



別紙2 (本文は、設問の都合で省略・変更した箇所があります。)

波のない①鏡のような川の水面を、カヌーが滑るように進んでいきます。

少しにごった川の水は、上流からの養分をたっぷり含み、それらがやがて海に流れ込んでこの一帯の生態系の栄養源になることを、見る者に感じさせます。川岸には、熱帯・亜熱帯地域に特有のマングローブが立ちならび、泥の上に無数の根っこがポコポコとせり出す独特の景観を見せています。あたりは、ときおり野鳥の甲高い叫び声がする以外、カヌーのパドルが水をかくビチャッビチャッという音しか聞こえてこない静寂の世界。まさに、②恐竜映画にでも出てきそうなジャングルの自然を堪能できるのが、ここ西表島のヒナイ川です。

ところが、私たちがカヌーで一〇分ほど進んだときのことです。突然、③川岸に置かれた大きな④白い物体が目に入ってきました。直径一メートル弱、長さは一・五メートル。重さも一〇キロ近くはあるかという「フロート」です。フロートとは、漁業で使う発泡スチロール製の浮き具のこと。⑤海上に設置された魚の養殖場の囲いにする網にくくりつけ、網を浮かせるために用いられます。オレンジや赤などの厚いプラスチック製のカバーで覆われていることも多いのですが、目撃したフロートにはカバーはありません。海面を漂い、波に揺られる間に取れてしまったのか、海外で使われているカバーなしのものなのか、どちらかなのでしょうか。  
先程「川岸に置かれた」と書きましたが、じつはこれ、人が置いたものではありません。水の力がこのフロートを運び、置いたのです。目撃した地点は河口から一キロ近く上流でしたから、水は巨大なフロートをとて短い距離運んできたこととなります。ここからも、動く水の持つ巨大な力がわかります。

(中略)

西表島の海岸、特に夏には南に面した海岸に、冬には北に面した海岸に、多くのごみが漂着しているのです。その中のひとつ、西表島の北東部にあるユチンの浜辺の様子です。ここは、青く澄んだ海と美しい浜辺が心に残る、まさに絵はがきの世界のような海岸です。ゆったりと波が寄せては返すさまは、南の楽園を思わせます。

(2) この海岸をよく見ると、数百メートルにわたって、⑥ごみが延々と漂着していることに気づかれます。目につくのは、先程の川岸にあったものと同じ大型のフロートですが、数の上ではペットボトルや洗剤のボトル、液体を入れる大型ポリタンク、プラスチック製の容器といったごみが、多数を占めています。優に数千、数万個という単位でありそうです。  
浜辺から三〇〜四〇メートルほど入った奥の林にも、たくさんのごみが落ちています。フロートが砕けた発泡スチロールの破片や紙コップ、プラスチックの容器など比較的小さいものが中心ですが、大小の電球がいくつも落ちていたのにも驚かされます。電球は、直径二〇センチくらいのもので、海岸にも落ちていました。漁で使う「集魚灯」だと思われます。間違っても踏んだりすると、大けがをしかねない危険な漂着ごみです。

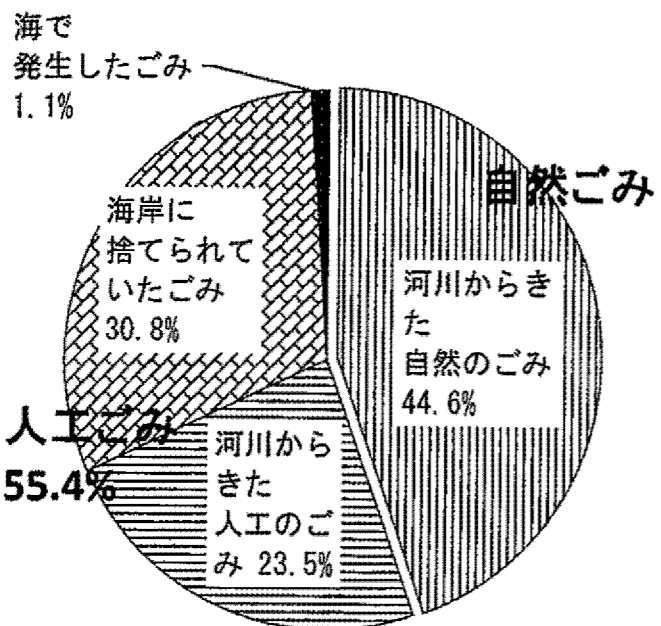
(中略)

さらに奥の、海岸から一〇〇メートル以上離れた林の中でも、無数の発泡スチロール片などが見つかりました。これらはすべて、風や満潮時の波などによって波打ち際から運ばれてきたものばかり。時間があると海岸やマングローブ林のごみをひろい集めるという森本さんも、「海岸清掃をする場合でも、林の中に入ってしまったごみは、なかなか回収できないんです」と困った表情になります。

(中略)

ごみが流れ着いているのは、沖縄や北海道の海岸ばかりではありません。本州や四国、九州など、国内のほとんどの浜辺に多くのごみが漂着しています。そこで今度は、本州・神奈川県湘南海岸の状況について見てみましょう。

(3) 一九九三年度から二〇〇三年度までの一年間に回収されたごみの「種類」の内訳を見ると、海藻が約六三パーセント、その他の自然のごみが約一七パーセント、人工のごみが約二二パーセントとなっています。ただし、このデータでは、海藻のごみ全体の約六割を占めているため、それだけが目立ってしまっています。



### 湘南海岸における漂着ごみの発生源

(かながわ海岸美化財団HPをもとに作成)

※1993~2003年度の回収実績の平均値

※海藻を除いて計算している

そこで、⑦海藻を除いたデータも出されています。もともとなったのは、一九九三年度と翌一九九四年度におこなわれた調査です。

それによると、河川から流れてきたAは約四五パーセント。河川から流れてきた人工のごみは約二四パーセント。海岸に捨てられていたごみは約Bパーセント。海で発生したごみは約一パーセントを占めています。このうち、河川から流れてきた自然のごみというのは、たとえば木くずやワラ、竹、アシやヨシ、それに葉っぱといったものです。河川から流れてきた人工のごみというのは、ペットボトルや空き缶、食品容器、袋類をはじめとする、自然のごみ以外のすべてのごみを指しています。海岸に捨てられていたごみも同じような内訳ですが、これにプラスして、浜辺で使ったあとの花火なども含まれています。海で発生したごみというのは、ロープや漁網といった漁具、釣具などを指しています。河川から流れてきた自然のごみ以外は人工のごみですから、海藻を計算に入れなければ、人工のごみの割合は約Cパーセントということになります。また、これも海藻を入れなければ、河川から流れてきたごみは約六八パーセント、海岸や海で発生したごみは約三二パーセントだということもわかります。

